



平成 26 年 2 月 17 日

1. 出張国名 マダガスカル

2. 出張月 平成 25 年 11 月

3. 出張目的 ため池を利用した稲作普及促進のための調査

4. 成果の概要

コメを主要農産物とし谷地田や河川沿いの低平地で稲作が行われているマダガスカル中央高地南部において、農業用水管理やため池の利用状況に関する情報を収集した。灌漑形態としては、取水堰灌漑、湧水による灌漑、ため池による灌漑が存在しており、政府が管轄する水利用者組織や、地域住民により管理されていた。営農実態は、水田稲作、畑作、水田裏作（主に野菜）、養魚を、気候、資源賦存、市場条件に応じて選択していた。ため池の規模は、表面積 0.03～1ha、灌漑面積 1～20ha、受益者 1～200 戸。管理主体は、個人、農民組合、行政指導の水利組合である。ため池の効果は、米 2 期作化、裏作の野菜導入、養魚などで、技術普及と組み合わせることで生計向上に成果を上げていた。